

## 熊本県高冷地における奨励品種「いただき」の特性

田中幸生・田中光一<sup>1)</sup>(熊本県農業研究センター高原農業研究所・<sup>1)</sup>熊本県農業研究センター矢部試験地)Kousei TANAKA and Kouiti TANAKA:  
Agronomic Characters of New Rice Cultivar "Itadaki"

熊本県の高冷地では、「ミネアサヒ」が約1,300ha作付されている。「ミネアサヒ」は、玄米の千粒重がやや軽く、やや小粒であること、食味変動が大きいこと等から、近年の市場評価は低下傾向にある。

このようなことから、気象災害からの回避、作期幅拡大による農作業の分散や適期刈り取りによる品質・食味向上を図るためにも、「ミネアサヒ」級の熟期を示す極良食味品種が強く要望されてきた。

そこで、「ミネアサヒ」に替わる極良食味品種として「いただき」を選定したので、その特性について報告する。

## 1. 来歴

本品種は、1989年に農林水産省北陸農業試験場において耐倒伏性、難穂発芽性等、複数の耐性を併せ持つ多収品種の育成を目的に「収4885」（後の「どんとこい」）を母、「収4695」を父とした人工交配に由来する。

熊本県においては、1997年に奨励品種決定予備試験に供試し、1998年から同本試験に供試するとともに、阿蘇郡一の宮町および久木野村の現地試験において地域適応性を検討した。

## 2. 形態的特性

稈長は「ミネアサヒ」より短く、穂長も短く、穂数はやや少ない“中間型”である。草姿は最高分げつ期までは葉身はやや下垂するが、最高分げつ期以降直立し、成熟期の草姿は良好である。着粒密度は密で、まれに短芒がある。ふ先色と穎色は“黄白”，脱粒性は難である。

## 3. 生態的特性

出穂期は「ミネアサヒ」と同程度で、成熟期は3日程遅い。稈の太さは“やや太”剛さは“剛”である。収量性は「ミネアサヒ」より優れる。耐倒伏性は「ミネアサヒ」より強く、穂発芽性は“難”である。

葉いもち病抵抗性は“中”，穂いもち抵抗性は“中～やや弱”で、「ミネアサヒ」よりやや弱い。白葉枯病抵抗性は「ミネアサヒ」よりやや弱い。縞葉枯病には“罹病性”である。

## 4. 品質および食味

玄米の形状は“やや円”，大きさは“やや大”である。玄米千粒重は「ミネアサヒ」より大きく、玄米品質は同程度である。「ミネアサヒ」より搗精時間はやや長く、適搗精における白米白度は同等で、搗精歩合は優れる。

食味は「ミネアサヒ」より明らかに優れ、外観が美しく、粘りが強く「コシヒカリ」と同程度の極良食味である。

## 5. 適応地域

1998年から阿蘇郡一の宮町・久木野村および上益城郡清和村において、「ミネアサヒ」を対照品種として現地試験を実施した。その結果、研究所内試験と同様の成績

を示した。

本品種は、熊本県の高冷地に適する。

熊本県においては、「ミネアサヒ」の全部と「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」の一部の代替品種として普及が見込まれる。

## 6. 栽培上の注意点

いもち病および白葉枯病には弱いので、多肥栽培を避け、適期防除を行う。

多肥栽培では、品質の低下が懸念されるので避ける。

第1表 「いただき」の特性概要

品種名	いただき	ミネアサヒ
熟期区分	早生の早	早生の早
草 型	中間型	偏穂数型
稈長 (cm)	71	81
穂長 (cm)	18.5	19.6
穂数 (本/m <sup>2</sup> )	440	470
出穂期 (月・日)	8.14	8.14
成熟期 (月・日)	10.2	9.29
芒の多少・長短	稀・極短	少・短
ふ先色	黄白	黄白
脱粒性	難	難
耐倒伏性	強	強
穂発芽性	難	やや易
葉いもち (推定遺伝子型)	中 <i>Pii</i>	中 <i>Pia, Pii</i>
穂いもち 性	やや弱	中
縞葉枯病	罹病性	罹病性
白葉枯病	やや弱	やや強
玄米重 (kg/a)	70.4	61.6
同上標準比 (%)	114	100
玄米千粒重 (g)	22.3	19.9
玄米品質	4.3(1下)	4.3(1下)
食味	上中	上中

注) 熊本県農業研究センター高原農業研究所 (1997～1999年の標肥栽培の成績)